目黒稲門会会報

（題字：眞仁田 勉　初代会長）

第101号　2023年12月

事務局：〒153-0053　目黒区五本木2-22-6　Tel:03-3713-1684
発行人：川崎 秀一　編集長　細谷 清　事務局長　吉野 博明
ホームページURL：http://me96tomon-waseda.la.coocan.jp/

2024年新年会開催のご案内

2024年新年会を、1月21日（日）ホテル雅叙園東京にて下記の通り開催いたします。

新しい年を迎え、今年こそはと飛躍を誓う方、家族の節目の行事に思いをはせる方、一年を無事に過ごしたことへ感謝される方、いろいろな新年があろうかと思いますが、共通するのは早稲田で学んだという一事です。目黒稲門会で集いあえば、あの青春の一時期に戻れます。

おなじみの方も、久しぶりの方も、おおいに飲み、語り合い、会の最後は皆で「都の西北」を高らかに歌いあげましょう。

新春らしく、昨年の新年会で好評だった早稲田大学落語研究会をお招きしております。

皆様には新年を迎えて何かとご多用のところと存じますが、ご家族おそろいで多数ご参加下さいますよう、次にご案内申し上げます：

記

1. 日　時：2024年1月21日（日）16時30分開会
（受付開始 16時）
2. 会　場：ホテル雅叙園東京2階「華しずかの間」
目黒区下目黒1-8-1、℡ 03-3491-4111
3. 懇親会：17時～ 19時
新春落語　早稲田大学落語研究会
4. 会　費：会員10,000円、ご家族5,000円
三菱UFJ銀行　学芸大学駅前支店
（普）0450905　目黒稲門会　宮村 直身
（メグロトウモンカイ　ミヤムラナオミ）
※当日は受付担当会員も新年会を楽しむ時間を確保するために、上記の口座への事前の振り込みをお願い致します。
5. 同封の返信用はがきを、12月25日（月）までにご返送下さい。電子版会報の方は、下記URLのフォームよりご出欠のご回答をお願い致します。
URL：http://me96tomon-waseda.la.coocan.jp/2024shinkai.html

早稲田大学落語研究会のご挨拶

私たち早稲田大学落語研究会は、1948年に設立された日本最古の落語研究会です。古くから“鑑賞”を通して落語をはじめとした大衆演芸に造詣を深めることを理念とし、現在もプロの噺家さんをお招きしての「鑑賞会」を中心に活動しつつ、200人規模の講堂で開催する「わせだ寄席」というイベントでは同世代の学生に落語に親しむ場を提供しています。

ほかにも早稲田祭や他大学との落語会、大会等を中心に、会員自らも落語を稽古して実演を行っています。

現在は早稲田大学を中心に集まった個性豊かなメンバー30名ほどの会員で日々活動中です。

新年を江戸の笑いで盛り上げたいと思います。
よろしくお願いします。

早稲田大学落語研究会幹事長

各部会からの案内・報告

俳句部会

第 159 回「俳句部会報告」
日時　2023 年 10 月 16 日(月)

（順不同）

川井素山　　赤城山　雲ひとつ乗せ　芋の秋
保井寶正　　秋祭り　踊らば踊れ　子供蓮
佐久間喬　　夜明け前　微雨に　目覚める　菊人形
丸山酔宵子　満月や　円周率は　無限なり
吉田啓悟　　ひるがへる　帰燕のひかり　法隆寺
青木英林　　用なき日　孫の破りし　障子貼る
山本草風　　菊人形　妻と観に行き　妻を見る
佐久間たか子 新米の 輝く未来 御食い初め
渡辺鯨波　　郷どんが　おもてなしする　菊人形
後藤克彦　　鰯雲　多勢に無勢　ながれけり
原　晶如　　その裏を　覗いて見たき　菊人形
永井正孝　　すすき穂の　波に映りし　山の影
金森純女　　初紅葉　曇天の空　ぬくめつつ
青葉ひかる　秋雨に　濡れて庭木の　光る露

俳句部会長　佐久間 喬

囲碁部会

上期リーグ戦第 3 ラウンドは 10 月 7 日(土)に終了し、1 位は市川、2 位は小岩氏と菊地氏となりました。また上期の総合優勝は市川となり、2 位は保井氏、小倉氏、小岩氏が仲良く分け合いました。

囲碁部会で一番囲碁の下手な私がかような成績を収められましたのも、一重にハンデのお陰です。ハンデは 1 ラウンド終了毎に毎回細かく修正されます。従いまして囲碁の腕前に自信のない方であっても、いつかは 1 位取れるチャンスはあるのです。遠慮なく参加されて下さい。

さて、下期第 1 ラウンドは 10 月 21 日(土)から始まりました。下期からは総合成績制を止めて、各ラウンドの優勝者のみを称える方式に変更しました。

囲碁部会長　市川 亘

食べ歩き部会

10 月 4 日(水)、7 日(土)に目黒稲門会恒例の新そば会を「更科堀井」麻布十番で開催しました。

初めに、堀井良造会員から今年の新そばの産地や献立の説明がありました。今年は北海道雨竜郡産のそばを使っているとのことでした。

前菜 4 点盛りの後に松茸そばが出ました。香りが良く秋の風味を堪能しました。その後、そば寿司、そばがきと続き、最後にかき揚げ天ぷら、更科そば、二八そば、十割そばが出ました。おそばはお代わり自由です。

今年もおいしいそばとお酒でおおいに盛り上がった新そば会でした。
参加者は、お友達、ご家族を含め計 23 名でした。

献立

第 1 回（10 月 4 日）

第 2 回（10 月 7 日）

世話人　金井豊男、吉野 博明

麻雀部会

10 月 16 日(月)に定例部会を“華 目黒店”で開催しました。参加者は 2 組 8 名（初参加者：石橋氏)。成績は、以下の通り。(敬称略)
優勝 本田、2 位 村上、3 位 宮村、ブービー 松尾。

次回は、12 月 18 日(月)、終了後に忘年会を開催予定。

麻雀部会長　村上 柾

美術・歴史鑑賞部会

11 月 5 日(日)、明治座創業 150 周年記念として公演中の「赤ひげ」(原作：山本周五郎「赤ひげ診療譚」)を 18 名で鑑賞しました。後藤相談役を通じて格安のチケットを入手、当部会としては初めての舞台鑑賞でした。

美術・歴史鑑賞部会長　永井 正孝

特別企画：護衛艦「いずも」乗船会

10 月 16 日(月)、海上自衛隊横須賀地方総監部に停泊中の護衛艦「いずも」の乗船会が開催され、当会より 5 名、全体で約 1, 200 名が参加しました。快晴の秋日和に恵まれ、9 時に出港、横須賀港を出たところまで航行、11 時 15 分に帰港、その間、艦内を見学し、「いずも」と海上自衛隊について理解を深めました。

「いずも」は、基準排水量 19, 500 トン、全長 248 メートル、全幅 38 メートル、高さ 49 メートル、速力 30 ノット(時速 55 キロメートル)、全通甲板を有するヘリコプター搭載護衛艦として 2015 年（平成 27 年）3 月より就役しています。

世話人　狩野 俊夫

いち月会

役員会後の懇親会をいち月会として、自由が丘梅山飯店（中華料理）にて開催しています。
9 月 4 日(月)(13 名参加)、10 月 2 日(月)(10 名参加)、11 月 6 日(月)(15 名参加)。12 月 4 日(月)の「いち月会」は、忘年会を兼ねて「自由が丘・「遊(ゆう)」(和食)にて開催します。初参加者は無料。是非、参加願います。

いち月会部会長　菊地 崇之

スポーツ観戦部会

10 月 28 日(土)の 9 回裏の劇的な逆転勝利に続き 6 季ぶりの優勝に臨んだ早慶 2 回戦。早大伊藤先発投手が初回にノーアウト満塁後に連続タイムリーを打たれて 2 点を慶大に先制された。さらに 7 回にバッテリーエラーとタイムリーで 2 点追加された。一方、慶大竹内先発投手および 2 番手の谷村投手より得点を奪えず、そのまま 0 対 4X で慶大に敗れ、優勝の行方は翌日の 3 回戦に持ち越された。

試合後の反省会で、3 回戦の奮起を願い、美味しいお酒を酌み交わしました。

早稲田スポーツ観戦部会長　狩野 俊夫

女子企画ランチ

10 月 28 日の土曜、女子会企画での庭園美術館鑑賞会には、今年入会した 2 名、家族会員 3 名を含む 10 名が集いました。

アール・デコを基調とする旧朝香宮邸の庭園そのものを読み解いていくユニークな展示です。よく晴れた窓辺の先に、美しい緑に目をやりながら、ゆっくり楽しみました。

鑑賞後は、美術館の正門横にあるガーデンレストラン「comodo」でランチを。参加者からリクエストをいただきながらも、予約困難の人気店のため見送ってきたお店です。料理を囲んでお喋りに花を咲かせ、楽しいひと時はあっという間でした。

新年会での元気な再会を期して、お開きとなりました。
次回の女子会は来年春の見込みです。

女性企画ランチ幹事　瀬下 智子

ウォーキング部会

第 159 回「玉川上水を歩く（第 3 回）」

10 月 11 日（水曜日）に、JR 五日市線の熊川駅から歩き始め、水喰土(みずくらいど)公園を抜けて拝島駅前を通り、玉川上水緑道を歩き、稲荷橋と新家橋の間にある、残場側と玉川上水の交差する橋を見て、西武線・武蔵砂川駅―多摩モノレール玉川上水駅経由で立川北駅に出て解散のコースでした。

お天気は晴れ、ややこの時期としては暑いくらいでしたが、清い流れを見ながらのウォーキングは、快適でした。先ずは、当日 PASMO を忘れてしまい、熊川駅で切符を清算しようとしたら、何と無人駅、まさかのスタートとなりました。福生方面に来ることは，ほとんどないですが、唯一娘の旦那が福生出身ということで、やや親近感を覚えました。東京にもこのような長閑なところがあるのだと。

JR 熊川駅

最初に立ち寄った場所は、水喰土公園。玉川上水切削中に、この場所で流れてきた水が、地下の関東ローム層に飲み込まれたことから、この名前の由来である。

水喰土公園

次に立ち寄ったのが、日光橋。1891 年、日光脇往還が玉川上水をまたぐ位置に建設された全長 16.1m の煉瓦積みアーチ橋。現存する同種の橋の中では日本最古。ただし、1950 年に交通量の増加に伴い両側をコンクリートで拡幅しているため、橋梁の下部をのぞき込まないと煉瓦づくりであることを確認することはできないとのこと。なお、1965 年にはさらなる交通量の増加に対応するため、上流側に武蔵野橋が完成。国道 16 号のルートからも外れ、幹線道路としての役割を失っています。

こはけ橋へ

日光橋の次は、平和橋、こはけ橋、ふたみ橋、拝島上水橋、美堀橋、そして松中橋へと続く。

松中橋にて

松中橋は、砂川分水、柴崎分水がここから南に向かいました。砂川分水は、幕府の財政再建のための新田開発を目的として分水されたとの。天王寺橋までの上水の右岸を並行して流れ、その後南の五日市街道沿いに玉川上水から離れる。柴崎分水も流域の上水、灌漑に利用され、立川市柴崎で多摩川に流れ込みます。

次の観察のポイント残堀川交差。ここでは、玉川上水が残堀川の下を流れています！「ふせこし」という工法（サイホンの原理）らしいです。ちなみに昔は残堀川が玉川上水に合流していたそうですが、明治時代に残堀川が汚くなってきたので合流しないように工事したとのことです。なお、柴崎分水も昭和記念公園辺りで残堀川に直交します。

残堀川と玉川上水が交差

約 6.5km、歩数にして 1 万歩のウォーキングを終え、玉川上水駅から立川北駅に向かい、その後、立川駅の魚料理店にて反省会を行い、今回ウォーキングの道中話やら、よもやま話に花が咲きました。

とても楽しい小旅行を堪能でき感謝です。

（記　山内 宏）

目黒に住んで

松方 正彦（昭和 59 年　理工）

私は生まれも育ちも目黒です。30 代は大阪、所沢に住んでいたこともありますが、それ以外はずっと目黒におります。現在も生まれ育った実家を立て替えて住んでいます。

父は明治生まれで小さい頃は神戸で育ったようですが、鎌倉に居を構えていました。目黒には大地主さんが何軒かいらっしゃいますが、そのうちの１軒から戦後直後に父が土地を購入したものと聞いています。その父がどのような経緯で目黒の地を購入することにしたのかは聞いていませんが、我が家の周りは空襲で焼け野原となり、その空き地を購入したと聞いています。当時は拙宅までが宅地で、ちょうど拙宅の前から道路を挟んで、現在のイオン、サレジオ教会方面に向けて田畑だったということです。現在でも前の家に比べて拙宅がある側は地面が数十センチ高くなっていて、これは当時の土地の様子が今でも残っているからのようです。

昭和４０年代までは、空襲で焼かれた建物がそのまま残っていたりして、夕方になるとその前を通るのがとても怖かったことをよく覚えています。学芸大学駅のすぐそばです。小学生のころは、やんちゃな友人がお化け屋敷などと称して、そうしたところを「探検」などをしていて連れていかれるのがとてもいやだったことを、この原稿を書いていて思い出しました。当時はいやとも言えなくて、痩せがまんでついていったわけです。

さて、我が家は兄も姉も慶応で、親戚も多く慶応に通っており、両親も私を慶応に入れようとしていて幼稚舎から受験を繰り返しましたが、私だけはどうしても慶応に入れず、早稲田に大学でご縁をいただいて入学できたという次第です。叔父は日野自動車を経営し、父は弁護士として日野自動車の顧問をしていました。そして、兄も姉も慶応の自動車部、おまけに隣の家のお兄ちゃんも慶応の自動車部というわけで、慶応の、しかも体育会系の自動車部に囲まれて育ちましたが、私はと言えば小中とサッカー部に所属していたもの、本を読むことと音楽が大好きな根っからの文科系人間でした。結局その趣味は変わらず、現在も音楽を続けています。

大学受験は理工系と法学部や経済学部を掛け持ちで受けていました。きっと神様が違う道を行けと差配してくれたのでしょう。そんな文科系人間の私が現在は早稲田大学で化学系の教員をしているのも我がことながら不思議です。

学芸大学駅周辺のお洒落な店々

学芸大学駅周辺はいまでも古い商店街が残っている街ですが、最近では「奥目黒」という名前が付けられて、おしゃれな飲食店が驚くほど増えてきました。学芸大学駅周辺という土地柄は、周辺に大きな企業がなくベットタウンの色が濃いので、社用族のお客様は多くありません。東急東横線の急行が停まることから、夜にぎやかな街を期待されて頻繁に新しいお店ができますが、１年以上継続することが難しいと聞いたことがあります。実際にお店が良く変わります。最近できるお店はこれまでになく若者向けておしゃれで、そこから生まれるエネルギーが学芸大学の新しい文化として定着してくれることを期待しています。

いつまでも活気がありながら、静かな住宅街でありますように。

西条八十

市川 亘（昭和 51 年　商）

毎週土曜日は囲碁部会のリーグ戦のため、次の対局相手にはどのような手を打とうかと思案を巡らせます。そこで時々以下の詩を思わず口ずさんでしまいます。

“あの手この手と思案を胸に　破れ長屋で今年も暮れた

愚痴も言わずに女房の小春　つくる笑顔がいじらしい

この詩はあの名曲「王将」第二番の歌詞で、将棋の坂田三吉の生き様を題材とした歌です。「王将」と聞くと、あのあくの強い村田英雄の顔と声を想い出す人が多いと思います。しかしながら、この第二番の歌詞は何か心に響くものがあります。

作詞者は西条八十。
名前は、本名です。両親は、苦しいことがないようにと、「苦」に 通じる「九」を抜いた「八」と「十」を用いて命名したとか。

西条八十は、自身の先立たれた妻を偲びこの第二番の歌詞を作詞したとされています。 石鹸製造業の実家が傾き、株式投資や天婦羅屋経営で糊口を凌いでいたとか。困窮の時期に奥さんに多大なご苦労をかけたとのこと。心に響くのも納得が行きます。

早大文学部英文科卒後、渡仏し、帰国後は早大文学部にて教授としてフランス文学を教えていました。また詩人としても活躍しており、作詞家としても有名です。
西条八十の代表作のレパートリーは広く、代表作は、

1. 童謡：
   「かなりあ」と「肩たたき」が有名。
2. 軍歌・戦時歌謡：
   多々あるが、「同期の桜」が余りにも有名。
3. 歌謡曲（王将」以外）：
   ①「東京行進曲」（歌手：佐藤千夜子）
   ②「銀座の柳」　（歌手：四家文子）
   ③「東京音頭」　（歌手： 小唄勝太郎・三島一声）
   ④「支那の夜」　（歌手：渡辺はま子）
   ⑤「巨人軍の歌　（歌手：伊藤久男）
   ⑥「誰か故郷を想わざる」（歌手：霧島昇）
   ⑦「蘇州夜曲」　（歌手：霧島昇・渡辺はま子）
   ⑧「青い山脈」　（歌手：藤山一郎・奈良光枝）
   ⑨「芸道一代」　（歌手：美空ひばり）
   ⑩「絶唱」&「夕笛」（歌手：舟木一夫）
4. 校歌
   多々あり、主な校歌は以下のとおり。
   ①早稲田中学校・高等学校第二校歌。
   ②横浜市立大学校歌
   ③明治大学校歌(加筆改作)
5. 詩集：
   ①「砂金」（象徴詩人としての地位確立）
   ②「見知らぬ愛人」
   ③「美しき喪失」
   ④「一握の玻璃」
   ⑤「空の羊」
   ⑥「少女純情詩集」
   ⑦「水色の夢」
   ⑧「ぼくの帽子」

「ぼくの帽子」は、角川映画「人間の証明」のテーマ曲「人間の証明のテーマ」で原詩を角川春樹氏が英訳し、ジョー山中が歌詞に仕立てて歌い有名になりました。さわり部分を以下書きます：

母さん、僕のあの帽子、どうしたんでせうね？
ええ、夏、碓氷から霧積へのゆくみちで、
谷底へ落としたあの麦わら帽子ですよ。

想い出した方々も多いと思います。この詩の全文はネットで検索し、ぜひ読んで下さい。喪失感をうまく表現している秀作です。

以上、西條八十の作品を私見に基づき書き連ねました。懐かしさとともにまだまだ有名な作品があるじゃないかとお叱りを覚悟の投稿です。
西條八十の信念は「やっぱり自分の詩が人をどれだけ動かすかに価値がある」との言葉に込められているように思えます

西条八十プロフィール：

1892 年東京市牛込区牛込払方町にて誕生
1909 年旧制早稲田中学校卒業
1915 年早稲田大学英文科卒業
1924 年-25 年
パリ大学文学聴講生
（早稲田大学派遣留学生）
1931 年-45 年早稲田大学教授
1943 年 茨城県下館町に疎開
1970 年　世田谷区区成城の自宅にて逝去(78 歳)

因みに長男の西條八束は陸水学者。長女の三井ふたばこは詩人。孫の西條八兄はエレキギター製作者。

目黒わが町自慢

大岡山　佐伯 文子　（昭和 51 年 文）

大岡山は、北で目黒区平町、北東で目黒区南、東で大田区北千束、また南で大田区石川町、西で目黒区緑が丘、西北の一点で目黒区中根に接しています。北部は主として住宅地となっています。目黒区大岡山二丁目の南部から大田区石川町一丁目にかけては東京工業大学（東工大）の敷地になっています。多くの場合、東急目黒線および東急大井町線の大岡山駅の所在地とその周辺の商店街の大半が大田区北千束にあるため、目黒区・大田区にまたがる一帯を「大岡山」として認識されます。

この辺の地形は丘陵地帯になっていて岩盤がしっかりしていて、地震の時も化学実験の時も、安全を考慮して東工大が、大岡山に建てられたそうです。隈研吾氏の建築の校舎もできユニークになってきています。

大岡山は、商店街もそこそこにぎやかで、気さくな商店街で、散歩がてらブラッと買い物をしてくつろげる所です。電気カーペットを買うと『湯か水でぬらしたタオルをきつく絞ってふくと、汚れと毛玉はきれいに取れるから』と親切にアドバイスしてくれる商店街です。

東工大の桜が満開の時は、一般公開され、桜の花見と橋からは富士山が晴れた時は全景でながめられ、下には東急電車が走るのが見え楽しめます。角のマクドナルドやスーパーで軽食を買って東工大の丘の芝生にすわって一息つくのも、いこいの場所になっています。平日の午前中に行くと、赤ちゃんや子供づれの若いお母さん達が日光浴とピクニックをしているのが、チョクチョク見られます。

東工大正門

息子（次男）が、センター試験の会場が大岡山の東工大で、試験当日、息子を送り出して昼頃に家の前を珍しくホウキではいていると、洗足 2 丁目の小さな家に 7、8 人の友達をつれてゾロゾロ帰ってきた時は、本当にヒヤッとビックリしました。大学受験やめて帰ってきたのかと、とても心配して『どうしたの?!』『昼の休憩に来た!』本当にびっくりしました。時間になると、また試験に行ったので、ホッとしました。猫達も静かに見守っていました。今では、良い思い出です。　（最終回）

目黒の坂巡り

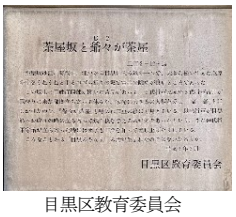
茶屋坂　瀬下 智子　（平成 7 年 文）

ここに 1 枚の浮世絵があります。
21 世紀の目黒ではもう見られない、見晴らしのよい田園風景、彼方に雄大な富士を臨む緩やかな坂道。
これが茶屋坂です。

茶　屋　坂　　今　昔

昔（歌川広重「爺々が茶屋」）　　今

落語「目黒のさんま」で、将軍が鷹狩りの途中で茶屋に立ち寄り秋刀魚を食したという、この茶屋坂。
この落語は創作ですが、実際に江戸時代初期からこの眺望の良い場所に茶屋があり、
徳川三代将軍家光公は茶屋の主人の素朴な人柄を愛して「爺、爺」と呼び親しんだことが「爺々が茶屋」の由来だそうです。



目黒区教育委員会
「茶屋坂と爺々が茶屋」看板

さて、この茶屋坂には、昔から綺麗な清水がこんこんと湧いていたようです。
この清水で淹れるお茶と、眺めの良いテラスでちょっとひと休み、、、と想像すると、江戸時代の旅もゆったり気持ちよさそうですね。
なぜか今はカフェが一軒もないこの茶屋坂エリア。
その名に恥じぬ素敵なカフェの開店が待たれます。

明治に入り山手線が開通、利便性の良いこの土地に海軍施設が建ち、昭和に住宅地開発が進んでからもこの清水は守られて、東京大空襲の際には消防用水、生活用水として近隣住民の命を救ったそうです。

目黒区土木部公園緑地課
清水の碑と看板

今ではマンションが建ち並ぶようになり、この水脈は途絶えています。
私もこの茶屋坂沿いのマンションに暮らして 15 年、、、多少の責任はありそうですね。
それでも、清水に育まれた眺めの良い坂道、そこに生きる人々は、きっとこれからも穏やかで爽やかであると思えてなりません。

さて、実はバス停「茶屋坂」は、この茶屋坂にはなく、「新茶屋坂」と呼ばれる大道路沿いにあります。
次号はこの「新茶屋坂」の記事をお楽しみに！

会員ギャラリー

『紅葉の駒沢公園』　写真
山内 宏　（昭和 56 年　教育）

世田谷区深沢 4 丁目に目黒区区民農園があります。その農園での畑作業の帰りに撮影した 1 枚です。
駒沢オリンピック公園の紅葉風景は、彩りが見事です。お散歩がてら、つかの間の癒やしをいかがでしょうか。
（撮影日:2020 年 11 月 16 日）

新入会員

福島 日輪（令和 3 年 文化構想）
（目黒区中根在住）
2021 年卒の福島日輪です。
文化構想学部文芸ジャーナリズム論系を卒業し、現在 SE の仕事に就いています。
今年の 4 月に、結婚を期に目黒区民になりました。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

清原 れい子　（昭和 44 年 教育）
（目黒区東山在住）
会長の川崎秀一さんと放送研究会の拡大同期会で再会。遅ればせながら入会いたしました。仕事は新型コロナがはやり出したころ、ちょうど卒業。今はアウトドア、旅行と、ボランティア少々の日々……。どうぞよろしくお願いいたします。

校友会便り

10 月 22 日(日)は、卒業後 15 年目、25 年目、35 年目、45 年目、50 年目の節目を迎える校友が心の故郷に帰るホームカミングデーと稲門祭でした。
目黒稲門会の「帰郷」対象者は 10 名で、式典は早稲田アリーナに於いて午前、午後 2 回に分けて行われました。出席した会員は、卒業してからの長い歩みを振り返る良い機会になり、また若い時に戻った気分で元気が出たと話していました。
稲門祭は、午前の式典終了後に開会しました。
当会有志は、お昼過ぎから大隈庭園の芝地に三々五々集まり、福引抽選まで稲門音楽祭 2023 を楽しみました。ハワイ民族舞踊研究会、キッズチア、ハイソサエティ・リユニオンオーケストラの恒例の演奏に続き今年は、ゴスペルママ(東京都北区王子の小学校 PTA の有志が主体となって結成、創立 25 周年のママさんグループ)、ニューオルリンズジャズクラブ稲門会、モダンジャズ研究会 OB 等の新しい番組も加わり、特に女性演者の活躍が目立ちました。

当会員の参加者はこれ迄概ね 15 名位でしたが今年は 8 名で、その仲間と会場を高田馬場駅近くの「居酒屋まぐろんち」に移して、祭り後の打ち上げをしました。
爽やかな秋空の下で陽を十分に浴びた体に、最初の生ビールは吸い込まれる様に入って行きました。こうして、早稲田での青春を思い出し、会仲間と語り、美酒の酔いで締め括った一日を満喫しました。

お悔やみ申し上げます

※令和 4 年 10 月～令和 5 年 10 月（敬称略）
矢杉 正明(昭 30 理工) 令和 4 年 10 月 25 日(91 歳)
服部 尚彦(昭 35 理工) 令和 4 年 12 月 24 日(85 歳)
海口 昭治(昭 23 専法) 令和 5 年 3 月 27 日（96 歳）
小野 満　（昭 41 商）　令和 5 年 5 月 7 日（81 歳）
佐伯 武雄(昭 41 理工) 令和 5 年 6 月 30 日（80 歳）
大内 秀明(昭 33 文)　令和 5 年 10 月 12 日（87 歳）

編集後記

任に就いてから 4 回目の発行ができました。
年 4 回発行する会報で一周廻った事になります。
会報は先に 100 号の記念号を発行しました。
そして当会は来年に設立から 25 周年を祝います。
継続は力なり、の訓えを守って来た結果でしょう。
会報も進取の精神を久遠の理想とする会員に応えて、継続して行こうと思っています。　（細谷 記）